

地域防災訓練@にしあさけ2017開催される

梅雨時にもかかわらず、恵まれた晴天の下、今年もまた6月17日(土)地域防災訓練が開催されました。(本校では、この行事を土曜授業の一環として行っています。)本校PTAはもとより、自治会や老人会など地域の方々、そして消防やNPOの方々など、多数の方々のご支援・ご参加を毎年いただいております。あらためてお礼申し上げます。ありがとうございました。

まずはじめに、四日市市社会福祉協議会の野田延聖さんにご講演していただきました(演題は「被災地から見た自分ができること」)。貴重な写真を交えながら、実際の体験(被災地での活動)に基づいた説得力あるお話をいただき、とてもためになりました。その後、各学年に分かれての活動となりました。

3年生は「HUG」(＝避難所運営ゲーム)を地域の方々とともに実施しました。15台の卓球台を机がわりにし、その周りを生徒(5、6人)と大人の方々合わせて10人くらいでぐるっと取り囲んで、HUGは始まりました。初対面の方々や打ち解けて活発な話し合いをするグループ、にこやかにアットホームな感じで話し合いをするグループなど、全体的にわきあいあいと話し合いが進められました(大人の方が上手にリードして下さったこともその要因でしょうか)。では、生徒の感想の一部を抜粋して紹介します。

- トイシをどうすればいいのとか、小さい子や高齢者、病人やけが人のことも考えなければいけなくて大変でした。
- 避難所運営はクレームに対応したり、不満を減らしたり、被災者の心をわかってあげられる人でないと上手くいかないと思った。
- カードが早くきて全然まにあわなかった。
- いろんな人の目線に立って考えることが大事だと思った。避難してきた人全員のことを考えるのはとても難しかった。
- 自分の意見をたくさん言えたいし、みんなで話し合えた。
- グループの人とたくさん話し合うことができたし、避難所の大変さがよくわかった。
- 避難所にはいろんな人が来るし、プライバシーがないから生活しにくいけど、生きていくためには我慢しなければならないし、人と関わりあっていかなければならないと思いました。

上の意見、特によいです。ふだんから、いろんな人(高齢者、障がいのある人等)と関わりをもつようにしていきたいものです

★保護者の皆様へ

地域防災訓練へのご参加(ならびにPTA役員の方々におかれましては準備等のお仕事)、ありがとうございました。こういった訓練がいかされない日々がずっとずっと続くことを願ってやみません。一方で、まだまだ困難な課題が残る熊本をはじめとする多くの被災地の完全な復興を期してやみません。被災された方々が一番辛いのは、まるで何事もなかったかのように、被災地のことが忘れ去られていくことだ、と聞いたことがあります。その意味でも、毎年、このような訓練を行うことは意義があるのではないのでしょうか…。さて、いよいよ修学旅行が目前にせまってきました。持ち物だけでなく、体調のほうもしっかり整えておくよう(当日の朝は早い！それに備えて早寝早起きを！)、ご家庭でもご配慮・ご準備お願い致します。



